

〔我衣〕延享三年六月、山王祭禮ニ、色々笠ニ物好キ始ル、花笠、モジ笠、チリグリ、扇笠、品々アリ、
〔守貞漫稿笠二十九〕花笠〇圖

今世女兒等、京坂ニテ舞ト云、江戸ニテ踊リト云、種々ニ扮シテ鼓三絃ニ合セテ歌舞ス、其扮ニ據テ花笠ヲ兩手各一ヲ持テ舞踊ル、骨竹ニ銀箔ヲ押シ、所々ニ紙ノ造リ花ヲツク、緋縮緬紐等ヲ付ル、或ハ舞踊リ扮ニヨリテ、眞ノ笠傘ヲ用ヒ、或ハ圖ノ如キ笠ニ花ヲ付ケズ、線子等ヲ張テカムルコトモアリ、或ハ市女笠ノ形ニテ右ノ製モアリ、各扮ニヨル、戯場ニテモ扮ニ應テ用之、

〔日本諸手船十五〕釋詁〇中 市女笠、頂立、突聳如巾子、今俗曰之、桔梗笠、外宮大御田祭子良物忌、儻衣袖戴、此笠、插秧、向田三植、蓋祈雨儀也、古之遺風、可以見矣、

〔貞徳文集上〕乍無心之儀、摺箔小袖〇中 桔梗笠〇中 躍衆之裝束、不殘可被恩借候、

〔北條五代記二〕福島伊賀守河鱸を捕手柄の事

一年小田原久野の入に神まつりあり、諸侍見物せり、いがの守も是を見物せんと、牛の角にきんはくををし、あかねの大ふさ鞆、あかねのはづなを付、をのれは草刈の體にて、腰にかまをさし、牛に乗、うしろむきて尺八をふき、女にくれなぬのそめかたびら、さきのとがりたるき、やう笠をきせて、牛をひかせて、力者一人に長刀をかつがせあとにつれ、祭見物せしを、皆人けうがるふるまひとて、時に至て笑しか共、惡難をいふ者なし、

〔骨董集上編中〕桔梗笠

犬子草寛永十年刻 野遊びや花すり衣桔梗笠

徳元〇中

右の如くふるき俳諧の句集に、桔梗笠といへる句おほかれば、當時おこなはれたる笠ならむとはおもひぬれど、いかなる形のものともえらざりしに、〇中 今も羽州秋田船越天王の船祭に、左の圖〇圖の如き笠をかふるよし、桔梗笠のなごりなるべし、